

レディ・イヴ (1941)

THE LADY EVE

メディア 映画

ジャンル コメディ ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 93分

初公開日 1994/04/23

公開情報 プレノン・アッシュ

【解説】

'41年のNYタイムズの年間ベスト10で「市民ケーン」を押さえてベスト1に選ばれたのに、なぜか戦後も日本では公開されることのないまま（TV放映はされたが）、'94年のスタージェス祭でようやく陽の目を見た、洗練とドタバタが玄妙なる調和でカクテルされた恋愛コメディの傑作中の傑作。オープニングのアニメから楽しさいっぱい（シルクハットの蛇が文字の描かれたリングを転がしてタイトルとなる）、女詐欺師と世間知らずの御曹司のすれ違いのロマンスを豪華客船上に描いて、これぞ30~40年代スクリーンボール、これぞパラマウント・タッチ！スタンウィック姉御の良さは察しがついても、フォンダのこれほど素敵な喜劇役者ぶりは思いもつかない。蛇にしか興味のないチャーリーは南米での長い実地研究を終えて帰路につくが、彼が大ビール会社の跡取りと知った船の独身女性客から注目を一身に浴びて閉口ぎみ。そこへコンビの詐欺師親子、大佐ことハリントン（C・コバーン）と娘ジーンは彼から大金を巻き上げようと、腕によりをかけるが、そんな彼女に一目惚れのチャーリーもまんざらではない様子。しかし、パーサーの廻した手配写真に二人の想いは露と消され、双方、傷心を抱え船を降りる。しばらくして、詐欺師仲間がチャーリー一家に出入りし財産を狙っていると知ったジーンは、淑女“レディ・イヴ”になりすまし、警告のため再び彼の前に姿を現す。イヴをジーンと疑いながらも別人と信じかけるくんだり、フォンダが純情青年のトロさを品良く出して最高。けれど、それ以上にスタンウィックのはじける快活なお喋りの中に、女心を滲ませるのが絶品である。脇役の使い方の上手さもエルンスト・ルビッチ級（ことにチャーリーの執事マグジーのW・デマレストのおかしさっつらない）！

【クレジット】

監督	プレストン・スタージェス	Preston Sturges
製作	ポール・ジョーンズ [製作]	Paul Jones
原案	モンクトン・ホフ	Monckton Hoffe
脚本	プレストン・スタージェス	Preston Sturges
撮影	ヴィクター・ミルナー	Victor Milner
音楽監督	ジグムンド・クラムゴールド	Sigmund Krumgold
出演	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda
	バーバラ・スタンウィック	Barbara Stanwyck
	ウィリアム・デマレスト	William Demarest
	チャールズ・コバーン	Charles Coburn
	ユージン・パレット	Eugene Pallette
	ジャネット・ビーチャー	Janet Beecher
	メルヴィル・クーパー	Melville Cooper
	ロバート・ダドリー	Robert Dudley

アーサー・ホイト	Arthur Hoyt
マーサ・オドリスコル	Martha O'Driscoll
ヴィクター・ポテル	Victor Potel
ジャック・リチャードソン	Jack Richardson
レジナルド・シェフィールド	Reginald Sheffield
ロバート・ワーウィック	Robert Warwick